

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
いけまつ れいこ 池松 玲子	
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
『主婦を問い直した女性たち——投稿誌『わいふ/Wife』の軌跡にみる戦後フェミニズム運動の一断面』の出版	
3. 助成額	
500,000 円	
4. 実施期間	
2020年7月 ~ 2021年6月	
5. 実施状況	
<p>2020年6月30日 竹村和子フェミニズム基金より出版助成決定の通知が届く。 勁草書房編集者と出版に向けてのスケジュールを確認。</p> <p>同7月初旬 博士論文の書籍化にむけた修正および検索語の一覧表作成に着手。 下旬 修正稿を出版社に提出。</p> <p>同10月初旬 初校ゲラが届き校正に着手。</p> <p>同10月下旬 初校終了し出版社に送付。検索語一覧表作成終了し同じく送付。</p> <p>同11月初旬 本文再校と索引初校ゲラが届き校正に着手。「帯」の文面を協議。</p> <p>同11月中旬 本文再校と索引初校終了し出版社に送付。カバー装丁について協議。</p> <p>同11月下旬 本文および索引校了。カバー装丁および「帯」の文面を決定。</p> <p>同12月中旬 配本日が12月22日に決定され、インターネット上では予約販売開始。</p> <p>2021年1月初旬 基金より授与された助成金を出版社へ出版助成金として送金。</p>	
6. 事業成果と自己評価	
1. 事業成果	
『主婦を問い直した女性たち——投稿誌『わいふ/Wife』の軌跡にみる戦後フェミニズム運動』の出版	
第1版第1刷発行:2020年12月20日	
発行所:株式会社 勁草書房	
判型・製本:A5判、横組み、上製本	
頁数:360頁	
定価:本体7,000円	

2. 自己評価

本書は、高度経済成長期から 50 年以上にわたり発行され続けている投稿誌『わいふ／Wife』に着目し、自らを主婦とアイデンティファイする女性たちに、主婦というあり方を相対化する「主婦を問う」という問いがいかにか伝えられたのかを明らかにすることで、戦後フェミニズム運動に新たな視点を提示している。

同誌は、1963 年に宝塚市の主婦により地域のミニコミとして創刊され、90 年代前半には全国に 4000 人を超えるまでに会員を増やし、主に中間層の主婦という立場にいる女性たちが自らの思いや生活実態を書き読みあう自由な言論空間として、今日まで継続しているユニークなメディアである。

創刊から現在までの同誌はもとより、編集部・会員へのインタビュー調査および会員への質問紙調査から得られたデータ、調査協力者から提供された内部資料、同誌編集部出版の書籍、新聞記事等を、編集部と会員主婦双方の視点から分析した。その結果、広く多様な主婦を集めることが可能な同誌の構造的特徴、差異を受容する誌上コミュニケーション、主婦論争という装置を用いた編集部の言論実践など、複数の要因によって主婦としての自己を問う態度が女性たちに共有されており、主婦相対化の視点の深く静かな浸透が明らかになった。

それは、明示的にフェミニズムを掲げていたわけではなく、むしろフェミニズムとは一定の距離をおく雑誌を標榜していた同誌が、実際には個の確立といったフェミニズムのメッセージを伝える回路の一つだったことを示していた。本書は、こうした同誌の動きを広義のフェミニズム運動と位置付ける視点を提示した。

これは、従来のフェミニズム運動の歴史理解を修正し、新たな視点に向けて一歩前進したという点で本書の成果と考える。

7. 提出成果物

提出成果物：

書籍：『主婦を問い直した女性たち——投稿誌『わいふ／Wife』の軌跡にみる戦後フェミニズム運動』

発行元：株式会社勁草書房

2020 年 12 月 20 日発行

ISBN 978-4-326-60331-2

